

基本理念

【目指すまちの姿】 住み慣れた地域で支え合い 誰もがよりよく生きる 健康・福祉のまち

- 団塊世代が75歳以上となる2025年に向けて、9期、10期計画も含めた中長期的な視点に基づき施策の検討
- 団塊ジュニア世代が65歳以上となる2040年も見据えた計画の策定、地域包括ケアシステムの深化・推進
- 病気や障害などの有無に関わらず、生きがいを持ち活躍できる社会「ポジティブ・ヘルス・オカヤマ (PHO) ※」の実現
- 災害や感染症対策に係る体制整備

1 地域とつながり 誰もが生きがいを持ち活躍できる環境づくり

- ・シニア世代の就労や地域活動を通じた社会参加の促進
- ・支え合いの地域づくりを担う人材の確保と機能強化
- ・地域に根差した相談支援体制の充実・強化(地域包括支援センターの機能強化)

2 心身の状態を改善し 健康寿命をのばすサービスの充実

- ・データを活用した効果的なフレイル予防の推進
- ・介護予防センターの専門性の活用
- ・ニーズに対応した介護予防・日常生活支援総合事業の展開
- ・地域や企業などと連携した健康づくりの支援と健康的な生活を送る環境の整備

3 医療や介護が必要になっても なじみの地域で暮らしていける仕組みづくり

- ・認知症の人や家族の視点を重視した認知症施策の推進
- ・在宅医療・介護連携の推進
- ・介護人材の確保、育成、定着及び業務の効率化
- ・高齢者人口の動向や介護資源の状況等を踏まえた各種サービスの展開



基本目標

※ポジティブ・ヘルス・オカヤマ：G20岡山保健大臣会合において岡山市長から宣言された「岡山の保健医療の目指すべき姿」。2030年までに、子どもからお年寄りまで、病気や障害などの有無に関わらず、生きがいを持ち活躍できる社会を実現しようとするもの。